

まちづくりの分野

# 健康づくり

主な担当課：健康増進課

3-1

## 現状と課題

- 福島県では、65歳の「日常生活動作が自立している期間の平均」を示す「お達者度\*」を算出（令和4年）しており、県は男性が17.5年、女性が20.56年であるのに対し、本町は男性が18.71年、女性が22.25年とどちらも上回っており健康寿命が延伸しています。高齢化の進行やライフスタイルの変化などにより、生活習慣病患者や介護を必要とする人が増加しており、幼児期からの健康づくりを通して健康寿命のさらなる延伸に向けた取り組みが重要です。
- 令和5年に実施した健康づくり調査では、『生活に「いきがい」や「はりあい」がある』と回答した割合が、52.8%であり、その人らしく生き生きと暮らしていける「こころ」の健康づくりにむけた、集落や団体等における健康づくり座談会などが求められています。
- また、同調査では、『自分と地域等の繋がりが強い方だと思う』と回答した割合が、60.2%であり、その人らしく健康で暮らし続けるには、「からだ」と「こころ」の健康に加え、人と人、人と地域などの「つながり」が大切であることから、その人を取り巻く「つながり」の充実のために気軽に話せる場づくり等の確保が求められています。
- 町民幸福度アンケート調査において、“現在” 幸せを感じる要因の上位は「家族・友人とのつながり」であり、“未来”の幸せに大切な要因の上位は「健康状態」「地域とのつながり」「家族・友人とのつながり」であり、今後もこれらに関する事業の充実等が必要です。

\*お達者度：福島県では、地域別・市町村単位の健康課題を明確化し、健康づくり対策の推進を図るため、国が算定する「65歳の日常生活動作が自立している期間の平均」と同じ算定方法を用いた健康寿命として、福島県市町村別「お達者度（健康寿命）」を算定し、公表しています。（人口12,000人未満の本町は、わずかな死亡数でも変動が大きいいため、参考値として公表されています。）

### 65歳の「日常生活動作が自立している期間の平均」を示す「お達者度（健康寿命）」（令和4年）

「お達者度」 （年）		
男性	国	17.95
	福島県	17.50
	西会津町	18.71
女性	国	21.14
	福島県	20.56
	西会津町	22.25

資料：福島県・福島県立医科大学健康増進センター



▲健康づくり座談会の様子

## こんなまちになったらいいな

- 健康意識が高く、一人ひとりが楽しみながら健康づくりに参加できるまち
- 生涯、いきいきと暮らせるまち

### 実現に向けた4年間の取組の方向性

「からだ」「こころ」「つながり」による「さすけねえ輪」の健康づくりにより、健康指標の改善を図ります。

高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施するとともに、次世代の健康づくりのため、母子保健と児童福祉の連携や、職域との連携により、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりの幸せな暮らしの実現を目指します。

### 実現に向けた4年間の具体的な取組

#### 1 からだの健康

生活習慣病の発症そのものを予防する一次予防と、合併症の発症・重症化予防に重点を置いた「からだ」の健康づくりにより、健康寿命の延伸を図ります。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①健康ポイント手帳と家庭血圧測定の推進</li><li>②食育実践支援事業</li><li>③健康づくりのための身体活動・運動の推進</li><li>④飲酒・喫煙対策の推進</li><li>⑤歯と口の健康づくりの推進</li><li>⑥各種健（検）診事業</li><li>⑦各種予防接種事業</li></ul>
--------	---

#### 2 こころの健康

一人ひとりが生きがいを感じ、その人らしくいきいきと暮らしていける「こころ」の健康づくりに取り組み、生きがいや張合いがある人を増やします。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①精神保健事業（にこにこ相談所、精神デイケア「あつまっ会」など）</li><li>②休養・こころの健康に関する正しい情報発信と普及啓発</li><li>③自殺者の減少に資する取り組みの実施</li></ul>
--------	--

#### 3 つながりの健康

その人らしく健康で暮らし続けるためには、「からだ」と「こころ」の健康に加え、人と人、人と地域などの「つながり」が大切です。地域の中で「つながり」の意義を再確認し、それぞれの健康づくりにつなげる取り組みを進めます。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①健康コミュニティ推進事業（みんなでワイワイ語ろう会など）</li><li>②健康増進計画アクションプランの推進（オモシロ座談会など）</li><li>③高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（介護・後期高齢各保険証交付説明会など）</li><li>④次世代の健康づくり（母子保健・児童福祉の連携、職域連携）</li></ul>
--------	--

## みんなで取り組むこと

- ・「からだ」「こころ」「つながり」を意識した健康的な生活スタイルを取り入れます。
- ・地域のイベントや健康づくりに関する活動に積極的に参加することで、町民同士の「つながり」を深めます。
- ・高齢者や子育て家庭等への支援を行うことで、全世代の暮らしの快適さと安心を促進します。
- ・町が実施する健康増進プログラムやイベントに協力し、意見や改善のための提案を行うことで、行政との連携を深めます。
- ・自身の職場や地域のコミュニティ内で健康づくりに関する活動を広めるなど、新たなネットワークを作ることで、「さすけねえ輪」を広げ、町全体の健康をサポートします。

### 数値目標（KPI）

目 標 名	現状値 (令和7年)	目標値 (令和11年)	目標値 (令和15年)	目標設定の説明
健康寿命*の延伸	男性:83.71 歳 女性:87.25 歳	男性:84.71 歳 女性:88.25 歳	男性:85.71 歳 女性:89.25 歳	健康寿命の延伸を目指す
生活に「いきがい」「はりあい」がある	52.8%	57.8%	62.8%	生活に「いきがい」「はりあい」がある人を増やす
自分と地域のつながりが強いほうだと思える人	60.2%	65%	70%	自分と地域のつながりが強いほうだと思える人を増やす

\*健康寿命:65歳+お達者度(介護度2未満の期間)



▲西会津ふるさとまつり（さすけねえ輪音頭）



▲こども園での和食道場



## まちづくりの分野

### 3-2

# 医療

主な担当課：健康増進課

## 現状と課題

- 令和7年には本町の高齢化率が50%を超えたことから、医療ニーズはさらに増加することが見込まれます。
- 本県における医療の状況は、医師不足については、徐々に改善されていますが、地域間の医師の偏在が課題であり依然として深刻な状況が続いています。
- 本町においては、令和4年4月から常勤医師3名体制を確保しており、引き続きこの体制を維持していくことが必要です。
- 看護師や臨床検査技師など医療の提供に欠かせない医療人材についても、町内での人員確保が課題となっています。
- 超高齢化社会を迎えるにあたり、医療・介護資源を有効に活用し、急性期医療から在宅医療・介護までの一連のサービスが地域で適切に提供されるよう、医療と介護が連携した地域医療体制の整備が課題となっています。
- 町が運営している国保診療所3施設のうち奥川診療所を除く2施設は、設置後30年以上が経過し、施設の老朽化による修繕が多くなっているほか、医療提供の効率化や患者へのサービス向上を図るため、医療サービスにおけるデジタル化を進める必要があります。

## こんなまちになったらいいな

- 誰もが必要な医療サービスをスムーズに受けられるまち
- 本人らしい最期を支える医療体制が整備されているまち

## 実現に向けた4年間の取組の方向性

町の国保診療所は、地域医療の中核的な役割を担う重要な医療機関であることから、町民が安心して受診できるよう施設の改修や医療機器の導入を進めるとともに、在宅医療の充実を図ります。

地域の医療体制を維持するためにも医療人材の確保に継続して取り組む必要があります。このため、大学生や看護学生の研修や視察の受入れ等を行いながら、西会津町の環境に触れる機会を設け医療人材の就業しやすい環境づくりに努めます。

保健・福祉・介護との連携を一層進めるため、電子カルテシステム等を活用したデジタル化の推進に取り組み、高齢者が住み慣れた地域で医療や介護、生活支援サポート及びサービスが受けられ、本人らしく過ごしていけるよう「地域包括ケアシステム\*」の推進を図ります。

\*地域包括ケアシステム：重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援のサービスを一体的に提供する仕組み。

## 実現に向けた4年間の具体的な取組

### 1 診療所の充実

国保診療所の安定した医療サービスを維持するため、医師や看護師などの医療人材の確保と医療機器や施設の充実を図るとともに、他の医療機関との連携により町民がスムーズに利用しやすい安心できる医療体制の整備を推進します。

主な実施事業	①診療施設整備事業（修繕を含む） ②医療機器整備事業 ③訪問看護事業 ④医療人材の受入れ事業
--------	---

### 2 関係機関との連携

保健・福祉分野や介護サービスとの連携を強化し、予防医療の充実や地域包括ケアシステムの中で、本人らしい最後が迎えられるような医療体制づくりを果たしていきます。

主な実施事業	①地域支援事業（在宅医療介護連携推進事業）
--------	-----------------------

## みんなで取り組むこと

- ・診療所や在宅医療サービスを適切に利用し、必要な支援を受けるとともに、周囲の家族や知人にも利用可能なサービスの情報を共有します。
- ・高齢者や介護が必要な町民が住み慣れた地域で医療や介護サービスを受けられるよう、近隣住民と協力して見守り活動に参加し、支援ネットワークを広げます。
- ・大学生や看護学生が研修や視察に訪れる際には町の魅力を伝え、地域の医療人材として定着を促進するための環境づくりに協力します。
- ・電子カルテシステムや医療におけるデジタル化の推進に理解を示し、必要なデジタルリテラシー\*を身につけます。
- ・地域医療体制が維持されるよう、町の診療所の利用や地域医療の重要性について知識を深めます。

\*デジタルリテラシー：デジタル技術に関する知識やスキル、そしてそれを活用する能力のこと。

## 数値目標（KPI）

目標名	現状値 (令和7年)	目標値 (令和11年)	目標値 (令和15年)	目標設定の説明
医療系学生*の受入れ(研修・視察)人数	40人	45人	50人	地域医療の現状を伝え、医療人材の確保と定着を目指す

\*医療系学生：医師や看護師、検査技師等の学校(専門学校含)の生徒



まちづくりの分野

# 高齢者福祉

主な担当課：福祉介護課

3-3

## 現状と課題

- 本町における、高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯数は年々増加しており、令和7年6月1日時点で高齢化率は51.2%となりました。また、後期高齢化率(75歳以上の高齢者の割合)は30.2%、高齢者に占める後期高齢者の割合は59.1%となり、全国及び県と比較して75歳以上高齢者の割合が高くなっています。(令和7年6月1日現在 福島県の推計人口より)
- 保健・医療・福祉を連携させたまちづくりを進め、介護老人保健施設の設置や在宅福祉サービスの充実、健康寿命延伸事業などに取り組み、高齢者の介護予防推進に取り組んでいます。また、「西会津町地域包括ケアシステム」の深化と推進を図り、高齢者が安心して住み慣れた地域で生活を続けていけるような取り組みを引続き進めています。
- 認知症対策の推進として、チームオレンジにしあいの活動、認知症の理解促進(認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催等)、認知症にやさしいまちづくり(地域見守りネットワークの構築等)を進め、地域での見守り体制の強化を図っています。今後も、幅広い世代に対し理解の促進をしていく必要があります。
- 高齢者の生きがい対策として老人クラブ連合会・単位老人クラブへの補助や生きがい活動支援(陶芸教室・趣味の教室)への補助を行ってきました。しかし、特に社会の担い手である若い会員(60代)は、活動に参加すると役割が重荷となることから参加を躊躇する傾向にあり、後継者不足となっている現状です。
- 各地区で行われているサロン等の運営についても地域の方の負担にならないよう運営等支援が必要です。

西会津町の高齢者人口の推移

(単位：人、%)

		令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)
総人口	(A)	5,882	5,746	5,597	5,452	5,283
40歳以上	(B)	4,483	4,389	4,315	4,200	4,092
65歳以上	(C)	2,798	2,767	2,745	2,728	2,672
75歳以上	(D)	1,613	1,587	1,583	1,606	1,604
高齢化率	(C/A)	47.6	48.2	49.0	50.0	50.6
後期高齢化率	(D/A)	27.4	27.6	28.3	29.5	30.4
高齢者に占める 後期高齢者	(D/C)	57.6	57.4	57.7	58.9	60.0

資料：住民基本台帳人口(各年9月1日現在)

高齢者世帯の状況

		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総世帯数	A	2,558	2,537	2,528	2,480	2,436
高齢者のみの世帯	B	1,138	1,150	1,170	1,195	1,185
総世帯に占める割合	B/A	44.5%	45.3%	46.3%	48.2%	48.6%
高齢者ひとり世帯	C	683	692	722	741	743
総世帯に占める割合	C/A	26.7%	27.3%	28.6%	29.9%	30.5%

資料：住民基本台帳人口(各年9月1日現在)

## こんなまちになったらいいな

### ●最期まで生きがいを持ちながら、安心して生活できるまち

## 実現に向けた4年間の取組の方向性

高齢や障がいなどで介護が必要になっても住み慣れた地域で最期まで生きがいを持ちながら安心して生活ができるよう地域の人や関係機関との連携を深め、高齢者のみならず、障がい者も含めた地域包括ケアシステムの深化と推進を引き続き図っていきます。

医療・介護・福祉の連携と持続性の向上につながる介護施設の整備に向けて進捗を図ります。

認知症にやさしいまちづくりとしてチームオレンジにしあいの活動の推進と認知症サポーター養成講座を小・中・高校生に対しても継続的に実施するほか、その親世代への理解も同時に図れるような講座となるよう検討を行っていきます。

コロナ禍により一時中断していた交流の機会が戻りつつあることから、高齢者の生きがい活動事業の支援を引続き行っていきます。

## 実現に向けた4年間の具体的な取組

### 1 高齢者福祉の推進

高齢になっても住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるよう「西会津町地域包括ケアシステム」の強化を図り、介護サービスや介護予防事業の充実、在宅医療と介護の連携、認知症高齢者や家族に対する支援体制の構築、高齢者を支える仕組みづくりなどを推し進めていきます。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①介護サービス・介護予防・地域支援事業</li><li>②介護施設の整備推進</li><li>③介護職員初任者研修事業</li><li>④認知症サポーター養成事業</li><li>⑤介護者支援事業</li></ul>
--------	--

### 2 高齢者の生きがい対策

高齢者の生きがいづくりのため、地域のサロン活動の継続支援及び老人クラブ活動の支援、スポーツや陶芸教室などの趣味活動の支援を社会福祉協議会などと連携し取り組んでいくとともに、生涯学習活動とも連携し各世代間の交流を検討していきます。また、シルバー人材センターに対し支援を行い、高齢者の就労の場の確保を図ります。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①老人クラブ・老人クラブ連合会活動費補助金</li><li>②生きがい福祉基金事業</li><li>③敬老会の開催</li><li>④敬老祝金</li><li>⑤シルバー人材センター活動費補助金</li><li>⑥生涯学習活動との連携の検討</li></ul>
--------	--

## みんなで取り組むこと

- ・認知症の理解を深めるため、認知症サポーター養成講座等へ参加し、講座の内容を家庭や地域で実践します。
- ・高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、近隣住民同士で助け合い、日常的な見守り活動に協力します。
- ・高齢者が参加可能なイベントや活動に自身も参加したり、家族や知人を誘うことで交流の場を活性化します。

### 数値目標（KPI）

目 標 名	現状値 (令和7年)	目標値 (令和11年)	目標値 (令和15年)	目標設定の説明
サロン数	44	44	44	地域での介護予防や助け合いを進めるためサロン数を維持する
認知症サポーター 養成人数（累計）	3,622人	3,800人	4,000人	認知症になっても安心して暮らしていくため、地域で見守ることができる人を育成していく



▲敬老会



▲認知症サポーター養成講座



▲チームオレンジにしあいづ 決起集会



▲町長杯争奪ゲートボール大会



まちづくりの分野

3-4

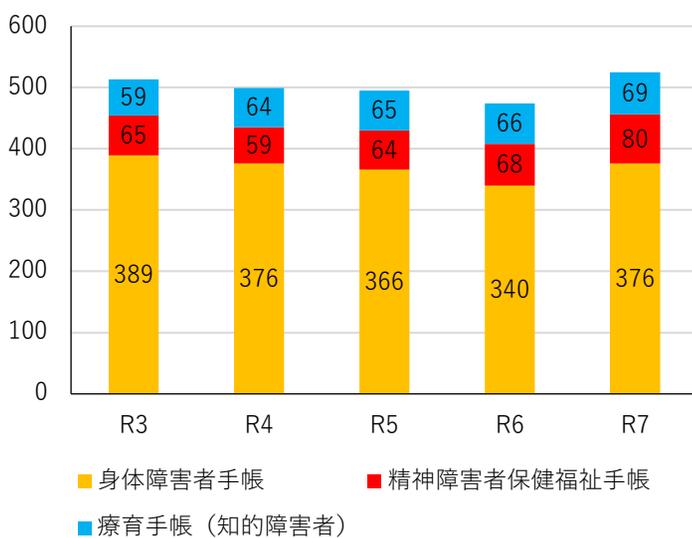
# 社会福祉

主な担当課：福祉介護課

## 現状と課題

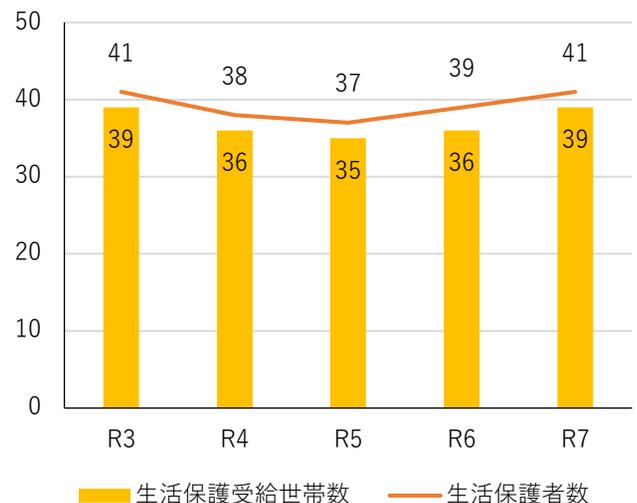
- 高齢化率は51.2%（令和7年6月1日現在福島県の推計人口より）となり、人口の半数が65歳以上の高齢者となっています。また、障がい者や障がい者を支える家族も高齢化している中、安心して生活ができるよう、障がい相談事業所を中心に各サービス事業所等と連携し、障がい者に対して必要な福祉サービスを提供することが大切です。このため、相談支援業務を障がい相談事業所にしあいつに委託し、障がい者本人やその家族、民生児童委員からの相談受付や情報の提供等の支援を行っています。さらに、住み慣れた地域で安心して生活をするために親なき後を見据えた生活拠点の整備等について引続き検討していく必要があります。
- 経済状況の変化に伴い、生活困窮相談が増えていることから、相談体制の充実と国や県を含む関係機関と連携を密にしながら新たな制度の周知などの支援を行っています。
- 高齢化の進行により、車を運転することができない高齢者が増加しているため、誰もが安心して暮らせるよう公共施設や医療機関、買物などに気軽に移動できるような環境づくりが求められており、公共交通機関における合理的配慮の推進や地域での支え合いの仕組みの活用、新たな移送の仕組みについて引き続き検討をしていく必要があります。
- 男女共同参画社会の推進については、社会全体において固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）等がまだまだあります。政治・経済・地域での女性管理職・役員が少なく女性の意思が反映されにくい状況や、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用環境悪化、DV等の増加、防災について女性目線での検討が必要、などの課題もあります。今後の社会情勢、予想される環境変化にも応じながら、性別にかかわらず一人ひとりが個性と能力を発揮できるよう行政も町民も一緒に考え取り組む必要があります。

障害者手帳所持者数（人）



資料：町福祉介護課調べ

生活保護受給者数



資料：町福祉介護課調べ

## こんなまちになったらいいな

- 買物支援などの支援が充実していて、安心して快適に暮らせるまち
- 多様な人々がつながり、人権を尊重し合いながら地域で助け合えるまち

## 実現に向けた4年間の取組の方向性

障がい相談事業所や各サービス事業所などの関係機関と連携し、障がい福祉サービスの充実や利用の支援を行います。また、ユニバーサルデザインの普及・啓発や町民の福祉意識の醸成に取り組み、障がい者や高齢者が住みやすいまちづくりを目指します。

また、経済状況を踏まえ、生活困窮者からの相談体制を充実させ、国や県などの制度の説明や周知を図るなど関係機関と連携しながら支援を行っていきます。

「西会津町男女共同参画計画」に基づき、すべての町民、家庭、地域、職場において男女がお互いを尊重し、性別にかかわらず個性や能力を発揮できるよう男女共同参画意識の醸成に取り組みしていきます。

## 実現に向けた4年間の具体的な取組

### 1 障がい者福祉の推進

障がい者が家庭や地域社会の中で、安心して生活できるよう在宅福祉サービス事業の充実や就労の場の確保、地域活動への参加促進を図っていきます。また、ユニバーサルデザインを推進します。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①障がい者相談支援事業</li><li>②人工透析患者通院費補助金</li><li>③身体障がい者就業育成事業補助金</li><li>④高齢者・障がい者合同スポーツ大会</li></ul>
--------	--

### 2 地域の支援体制

社会福祉協議会や福祉施設などの社会福祉法人、民生児童委員、ボランティア団体などと連携し、高齢者・障がい者及び生活困窮世帯等の更なる相談支援体制の充実を図ります。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①心配ごと相談事業</li><li>②ボランティア活動推進事業</li><li>③高齢者等あんしん見守りネットワーク事業</li><li>④虐待防止対策事業</li><li>⑤避難行動要支援者台帳の整備</li><li>⑥生活困窮者対策事業</li><li>⑦社会福祉協議会活動支援</li><li>⑧介護タクシーや福祉タクシーの活用検討</li><li>⑨生活支援体制整備事業</li></ul>
--------	---

### 3 男女共同参画社会の推進

男女共同参画社会の実現に向けて、「男女」の性別にとどまらず、年齢、国籍、性的指向、性自認（性同一性）に関することなども含め、幅広く多様な人々が生きがいを感じることができ、多様性が尊重されることが重要であるという考え方が浸透してきています。町においても、男女共同参画計画に基づき、誰もが個性や能力を発揮することができる社会の実現に向け、家庭や学校、企業、地域などであらゆる機会を捉え、男女共同参画の意識づくりや環境づくりに引き続き取り組みます。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"><li>①男女共同参画への理解促進啓発</li><li>②男女共同参画計画の推進</li></ul>
--------	--

## みんなで取り組むこと

- ・困っている人々が適切な支援を受けられる環境づくりに協力します。
- ・性別にかかわらず、家庭、地域、職場でお互いを尊重します。
- ・障がい相談事業所や各サービス事業所など、関係機関と関わりを持ち、地域全体で情報を共有し支え合います。
- ・福祉関連講座や啓発活動に参加し、自分自身が情報を得るだけでなく、それを家庭や近隣住民にも共有します。
- ・地域イベントや活動にすべての人が楽しく参加できる環境づくりを目指します。

### 数値目標（KPI）

目標名	現状値 (令和7年)	目標値 (令和11年)	目標値 (令和15年)	目標設定の説明
高齢者等あんしん見守りネットワーク協力事業所数	66事業所	70事業所	75事業所	地域の見守り体制を強化するため、協力事業所を増やす
町の審議会などにおける女性委員の割合 (審議会などの附属機関における女性委員/委員総数)	28%	30%	35%	女性の参画により政策・方針の決定過程に多様な視点を取り入れる



▲高齢者・障がい者合同スポーツ大会



▲ミニデイサービス



▲ゴミ拾いボランティア



▲社会福祉法人 西会津町社会福祉協議会主催 車いす体験

まちづくりの分野

3-5

# コミュニティ

主な担当課：企画情報課

## 現状と課題

●令和7年6月1日時点の本町の人口5,321人に対し、高齢化率51.2%（令和7年6月1日現在福島県の推計人口より）と高齢化が深刻な課題となっています。また、高齢化率が50%以上の集落、いわゆる「限界集落」は65集落まで増加しています。

●本町の集落支援事業は、令和7年度から集落支援担当の専任職員と集落支援員1名、地域おこし協力隊3名体制で、高齢化率が80%を超えている集落を中心とした「各集落への巡回・見守り」、集落における共同作業（人足）の負担の軽減と安定的な運営を維持するため、人足への参加をイベントとして組み込んだツアー等を実施する「集落支援の取り組み」、伝統文化や自然など地域資源を活かした「集落活性化の取り組み支援」、地域のコミュニティ維持のための「交流の場づくり支援」、大学・企業等の農業体験やフィールドワーク等を受け入れる「交流事業」などを柱として展開しています。

●サロン活動や地域での催事、行事などコミュニティ活動を行う場所として自治区集会所が重要な拠点となることから、要望に基づき改修やエアコン等の備品整備の支援を行い、地域コミュニティの維持・活性化を図っていくことが求められています。

●集落支援拠点施設「結」を活用し、人足イベントやフィールドワークで滞在しやすい環境づくりを行っています。



▲田植え体験



▲大学生が参加した春の人足イベント

## こんなまちになったらいいな

- 世代や地域を超えた交流と助け合いが活発なまち
- 気軽に集える場所があり、誰もが孤独を感じないまち

### 実現に向けた4年間の取組の方向性

集落の現状、将来の姿を地域住民と共有し、住民の思いに寄り添った、集落が望む形の集落支援を進めていきます。

役場内に集落支援に関する検討組織を設置するとともに、関係機関と連携し必要に応じて移住者や交流人口など集落外の人々の力も活用しながら、近隣集落が互いに助け合い、支え合う仕組みづくりを進めていきます。

### 実現に向けた4年間の具体的な取組

#### 1 各集落への巡回・見守り

重点的支援集落（弥平四郎、弥生、大舟沢、荒木、小屋）、高齢化率が80%を超えている集落を中心に定期的な訪問を行います。

また、集落を維持すること自体が困難になりつつある集落については、住民との対話をしながら、町としての支援内容について検討します。

#### 2 集落支援事業の取り組み

共同作業（人足）への参加をイベントとして組み込んだツアーを実施します。実施にあたって集落の負担とならないような仕組みづくりや、継続的に集落と交流人口をマッチングできる仕組みづくりを進めます。

また、集落支援の範囲を広げるための調査を実施します。

#### 3 集落活性化の取り組み支援

地域資源を活かした独自性のある集落活性化に向けた取り組みやイベント、新たな地域資源の発掘など、集落の主体的な取り組みを尊重しながら支援します。

また、奥川地域づくり協議会等地域主体の取り組みの支援を行うとともに、そういった団体・地域をけん引役にして他の集落へ波及するよう取り組みます。

#### 4 集落に暮らす人の元気づくり支援・交流の場づくり支援

ミニデイサービス事業や地域サロン、福祉座談会、出前講座など、町社会福祉協議会や生涯学習課など関係機関と連携・情報共有し、集落の人が集まる機会づくりの支援を行います。

地域コミュニティの拠点となる地域の集会施設等整備の支援を進めます。

## 5 大学・企業等との交流事業

現在交流を行っているZEN大学をはじめとする大学や企業との交流を継続するとともに、新規大学・企業との連携について強化拡大します。

集落支援拠点施設「結」の活用をはじめ、農家民宿やゲストハウス等との連携により、人足イベントやフィールドワーク、企業等の社員研修等で滞在しやすい環境づくりを行います。

主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>①集落支援員配置事業</li> <li>②地域おこし協力隊配置事業（集落支援担当）</li> <li>③外部団体やボランティア、大学生などの受入れ体制づくり</li> <li>④集落機能維持のため集落支援拠点施設[結]を活用した支援</li> <li>⑤友好交流市町村や企業・大学等との連携・交流事業の強化拡大</li> <li>⑥西会津町コミュニティ育成事業</li> <li>⑦活力ある地域づくり支援事業</li> <li>⑧関係機関・関係課との連携強化</li> <li>⑨CATVや広報等を通じた集落支援活動の情報発信の強化</li> </ul>
--------	--

### みんなで取り組むこと

- ・自分の集落の状況や課題を地域住民や町と共有します。
- ・集落支援活動やワークショップに参加し、「集落の望む形」を明確にするためにアイデアや意見を出します。
- ・移住者や地域外の人々を温かく迎え入れ、できる範囲でサポートを行います。
- ・地域のイベントや、交流人口を増やす体験プログラムなどを通じて外からの力を取り込み、集落を元気にする取り組みを行います。
- ・住民同士で共助の体制をつくり、日々の生活や災害時の緊急時対応を含めた地域の安全・安心を支えます。

### 数値目標（KPI）

目標名	現状値 (令和7年)	目標値 (令和11年)	目標値 (令和15年)	目標設定の説明
活力ある地域づくり支援事業*の取り組み件数	1	3	5	地域づくり活動を活性化し、コミュニティの維持を図る
各イベントでの人足ボランティア、大学・企業等の研修	269人	300人	400人	各季節の人足ボランティア、大学の合宿、企業等の研修、集落行事の手伝い等の関係人口を地域団体等と連携し体制構築をする

\*活力ある地域づくり支援事業：地場産業の振興、芸術・文化の振興等、地域の活性化を目指す町民（団体・個人）に対して補助金を交付する事業



▲日本の田舎体験-田植え編 集合写真



▲企業研修の受け入れ